各地汽車發着

時事新報

斷髮令を發すべし

臺灣の處分に就て阿片を嚴禁す可しとの旨は屢々述べたる所なれば是れは無論の事として我輩は之に次で斷髮令の施行を主張するものなり或は嶋民の辮髮を其儘に爲し置きたりとて何程の事あるべき彼等の頭髮が長きも短きも實際に差支はあるべからずとの説もあらんかなれども決して然らず頭髮の長短は以て民心の向背をトすべきものなり抑も彼の辮髮は嶋民固有の習慣に非ず彼等が北狄韃夷と侮りたる其夷狄國即ち今の清國に征服せられたる當時力に於ては負けたれども心には尚ほ夷狄視して歸服せざるより刑罰的に餘儀なくせられて風俗を變へたるものなるに然るに今は其夷狄の風に化して却て之を慕ふに至りしは其初め愛親覺羅氏が斷然たる處分の結果に外ならず一時の嚴制は永久心服の端を開くものと知る可し他國の人民を征服して新政の下に歸せしむるが如き急激の變化に際しては非常の手段にあらざれば人民の不平心を除き去ること能はざるの事例は世界の歷史に珍しからざるのみか國內に於ても人民の固陋心を破りて開明に導かんとするには多少の不平を免かれざること近く我邦の事實に徵するも明白なり現に王政維新の際にも德川幕府の舊臣等は干戈を以て抵抗を試み力盡きて始めて屈服したる程の次第なれば況して無智頑冥なる嶋民等が平生より卑下したる倭奴の日本人に最初より心服するが如きは到底望むべからざる所なれば斷然斷髮令を發して嶋民の向背を定むべきものなり本來を云へば臺灣が既に日本領に歸したる以上は自から髮を斷ち服を改めて日本の風に從ふこそ至當なるに徒に舊習に戀々として俗を改むるに吝なるは新政府に對して禮を欠くものなり婦人が人に再嫁しながら尚ほ舊夫の美に誇るが如きは男子に接するの道を知らざるものにして我輩の斷じて許さゞる所なり或は斯る嚴令を下すときは人心離反して施政上に差支を來す可しとの懸念もあらんかなれども其實心の底より服從せざる嶋民を其儘に放任して以て南海の鎖鑰を守らんとするは恰も爆裂彈を懷にして火に向ふが如し甚だ危險の至りなれば速に嚴令を布て其向背を一定せしめざる可らず案ずるより產むが易しとの諺に漏れず一時の嚴令は却て後來心服の基を成すや疑ふ可らず故に我輩は斷髮令の發表に更に一歩を進めて嶋民の最も重んずる葬禮の棺制をも一定せしめんと欲するものなり

雜報

○修羅の巷餘聞

芝神明前の大喧嘩に付ては前號の紙上に取敢ず其實況を報道せしが今又靜かに記載せんに神明は場所柄とて昔から諸方の遊人抔寄集ひ從て喧嘩口論イサクサの始終絕えたる例なければ御維新前より同所には矢場取締と云ふが如き者ありて俠客肌の勇男取締と爲り喧嘩の仲裁やら亂暴人の防禦やらを爲し居りて其威勢は神明一圓のみならず芝一圓を屈服するの有樣なりしが今の老者達に説得居する例の某が老年の爲め取締を退きし以來は區內入天下の喧嘩番を現はし明治二十年頃彼の備田德次郎がバン竹の跡を引受けて鳥森に親分となりしより續て片一亦神明生拔の顏利と云ふ廉にて人に立られ兩雄並立たずチヤ、カスリを遣る遣らぬの鬪着より到頭今度の大事件を持上げたるこそ返へすぐも困つた物なれ扨て櫛田と片一との掛合は喧嘩の當日即ち六日迄に數度往來談判の有りしこそなれば片一方の知人は早くも櫛田より喧嘩を賣られたる事を聞知り其日は出入の商人、知合の遊人、其外隣近所の女子供杯誰れ彼れ見舞に來りて掛合の風評扨ては四方山の物語に餘念もなく又兼て片一と別懇なる同區西應寺町の綽名相田某を初め數名の顏利は斯る事に雙方角突合を爲し思ひも寄らぬ怪我人杯を出したる揚句に官の御厄介に成りては由々敷大事なれば此處は一番預つたくの止め役となり雙方共に顏の立つやうに取計ひなだめ賺して目出度拍手がさせたいと思ひくに奔走する間も疾し遲し此時戶外の方にガラくと人力車數丁馳せ來る氣配して片一方の近所にパツタリ止り此方を差して急足に下り來るものは是れなん櫛田方の彥テン初め子分前田、前山、林なんどの六人にして其扮裝といつば何れも書生羽織の其下に襷十文字に掛け助六張の鉢金を當て中にはギゴチなき昔ながらの鎖帷子をギツクヤツクと着こなしてれのく二尺七寸餘もあらん新刀ながらも拔けば玉散る大ダンビラを橫へ今しも世間話に餘念なき片一方の格子戶をグワラリと開けて猛虎一聲彥テンが片一居るかの鋭き言葉を聞くと均しくみなくダンビラ拔拂て我れ後れじと斬込んだり此方は留守を預る鐵蝶辰、不意の事とて得物さへも有らざれば早速の氣轉有合ふ車の梶棒押取り仁王の如く入口に立はだかりてぞ防ぎける此間に居合せたる見舞の人々はソレ喧嘩の聲もワナくく出ればみそ氣も心もうはの空にしどろもどろに逃出もたり引違ひに寄手の半分は裏口より無二無三に斬込み是れも見舞に來合せたる宮城縣の俠客山田定五郎が火鉢の脇に安坐をかき居たる背後より物をも言はず一刀深く浴せ掛けたり定五郎は他人にも知られし豪の物にて業物執ては人後に落ちぬ男なれども無手なれば詮術なく肩より背中に掛けて深手を負ひつゝ裏口に飛出し土瀟板引外して暫時は挑み戰ひけり又鐵蝶辰は彼の彥テン外二人を相手に梶棒にてチヤンカチくと一生懸命に戰ひたるが生憎梶棒なればチヤンくとは參らずカチくなら幕にて先づ今日はの打出しなれども芝居の喧嘩でなければ开うも行かず寡は衆に敵せずカチはチヤンに及ばぬ天理の配劑致方なく到頭大事の梶棒は眞二つに斷切られて右の股と右の腕とをしたゝかに斬られ最早や是れまでと思ひしにやスツと身を外して外面に驅出し宮本町巡査派出所に至りて狼藉の始末を訴へしが跡に遺りし定五郎は無手の悲しさ思ふ儘に斬苛まれて其場に堂と倒れたり寄手は目指す相手の片一は留守なり鐵蝶辰定五郎の二人には深手を負せたればイザ立歸らんと車に打乘り濱松町より大通りに出で神明の鳥居を潛りて日影町通り[illegible]を右に驅せ去るを見るより鐵蝶辰は巡査に訴へ[illegible]るまゝ韋駄天走に後追掛け开うする中最早や最初より三十分餘も經たること故近所の片一が子分等は夫れぐく聞付けて後れながらも馳せ參じ彼の呉服商大丸の店先に來りし頃は其敵七八人にも增したるべし中にも中村健二は彥テンを乘せたる車を見るより逸足出して阿彌陀に取付き已れ遁らぬと力一杯引戾しぬ引戾されて彥テンは一刀拔く手も見せず振向樣に健二が天窓を鉢も割れよと斬付けたれば健二は是れに堪らず痿む所を河合定吉來合せて持たる梶棒振上げ今度は彥テンの天窓をイヤと云ふほど擲りたり此有樣に櫛田方の二名は雲を霞と逃去りしが殘る四名は退くに退かれず敵れかぶれに雙方入亂れて昨日記せし如く近來聞きも及ばぬ大修羅場をぞ現はしける

○三李政治

朝鮮の現政府中にて兎に角に勢力家と稱す可きは李範晉、李允用、李完用の三人にして三李政治の評ある所以なり何れも第二流の人物にして政治上の材能なきは勿論なれども三李の中にて範晉は無學なれども膽力あり如何なる手段も容易に斷行して怖れざるが故に權力自から其手に歸して國王も意の如くならざること多し王の心に問へば王宮に還りたきは山々なれ共新內閣の威望は朝野反對の氣焰を壓するに足らず殊に大院君を幽閉同樣に待遇するの一事に付ては非常に憤はるもの多くして若しも一旦露國公使館を出づるときは閣員等の安危頗る心元なきが故に王に對しては氣の毒ながら當分の間、還宮は先づ以て覺束なきこと。ならん目下範晉の最も關心する所は趙義淵等の擧動にして其人々の一身は他國に在て如何ともする能はざるが故に今は專ら手足羽翼を絕つの策を取り頃日來その徒の續々逮捕せられたるは之が爲めなる可しと云ふ

○朝鮮國王の近狀

李範晉等が謀主と爲りて暗々裡に露國の勢力を賴とし國王を幽閉の有樣より脫せしむるとの口實を以て去月十一日の變動を企て幸に目的を達して王を露國公使館に移し今尙ほ同館に滯留中なれども其近狀を聞くに前記の如く政令は專ら範晉の手に出で現に王自身は更に知らざる詔勅さへも發したる程の次第にして王の自由意志は全く行はれざるのみか公使館內の寓居は甚だ手狹にて近侍の者も其數少なく起居眠食共に甚だ不自由にして萬事不愉快なる其有樣は範晉等の所謂內閣の幽囚を脫したる國王も今は更らに第二の幽囚に陷りたるに異ならず年來棲慣れたる宮殿は眼前咫尺の地に在りながら他國公使館の一隅に居候として窮屈に日を送る王の境遇は察するに餘りある可しと云ふ

○親衛隊の糧食

朝鮮國內の各地に蜂起して亂暴を逞ふしたる暴徒等は政府の更迭と共に義兵と認められて思はぬ名譽を博したる其義兵の征討に向ひたる彼の親衛隊は如何せしやと云ふに召還の命に接して歸京の途に就きたれども前內閣に因緣の淺からぬ親衛隊、甚だ劍呑なりとて京城內に入るを許されず恰も進退に窮したる姿にして第一に彼等は如何にして自から支ふるならんとの疑もあれども最初出征の時に糧食は各地方の官衙に在る政府の金穀に依る可しとの命令を受けたる其命令書は新政府より別に取消もせず依然有效にして現に其手に在るが故に彼等は到る處の地方官に對し[illegible]の命令を實行し居るならん又政府の兵器は親[illegible]出征の際に大抵、携帶し去りたれば今尙は其手に存じて現政府には一挺の小銃、一發の彈丸もなき有樣なりと云ふ

○亞弗利加に於ける伊太利軍

アビシニヤと伊太利との戰爭の事實に關しては、甚しく[illegible]せられたり伊太利軍隊がアビシニヤ軍に敗られしは事實に相違なきも其は唯軍隊の一小部分を[illegible]したるのみにしてバラトリ將軍の遭遇の敗北はキユーバに於ける西班牙のカムポス將軍の大敗北に比すれば實に小事なり今度[illegible]に本國政府の不能と失政[illegible]事實の眞相は頗る信據す[illegible]のにして此報一たび世界[illegible]ならず今將さに激昂せる[illegible]ならんと云ふ

○水雷爆發試驗

[illegible]設せる水雷は明日頃より[illegible]よし

○品川灣軍艦の出入

同高雄は昨九日警備艦葛[illegible]錨し目下碇泊の軍艦は常[illegible]金剛、警備艦愛宕の三隻[illegible]

○鎭遠の修復期

[illegible]にて修繕中なるが工事は[illegible]ならでは結了に至らざる[illegible]

○金剛の外國航海

[illegible]は海軍兵學校卒業の少尉候[illegible]乘艦せしめ來る十三日品川[illegible]一週間操練の上、横須賀[illegible]して來月初旬同港を拔錨[illegible]旬歸朝の豫定なりと又其[illegible]香港、上海、臺灣、芝罘、旅順[illegible]根室、占守嶋等にて半は[illegible]

○ケーペル氏の訃音

[illegible]ルソン ケーペル氏は多年[illegible]つ氏の日本好は單に我國の[illegible]

北蕃

北蕃婦

喩山